

第2回 プレーパーク講座【結果報告】

日時：平成27年4月25日(土) 10:30~16:00

場所：にしのみや国有地プレーパーク

出席者：54名(他市2名、コンサルタント5名)

~ 近隣プレーパークで遊ぼう! ~

@にしのみや国有地プレーパーク

講師：米山 清美氏

(にしのみや遊び場つくろう会 代表)

【講座内容】

開催挨拶

はじめのあいさつや注意事項等の説明がありました。

にしのみや遊び場つくろう会代表：米山さんからお話にしのみや国有地プレーパークを運営しているにしのみや遊び場つくろう会代表の米山さんから当地のプレーパーク活動の説明がありました。

昼飯つくろう会

にしのみや国有地プレーパークで行われている昼飯つくろう会の体験をしました。

自由遊び・フリートーク

にしのみや国有地プレーパークで自由遊びを体験しました。また、米山さんをはじめスタッフの方々と意見交換し、交流を深めました。



【講座の内容】

国有地プレーパークについて

名前の通り国有地(国の土地)を使ったプレーパークです。2003年に兵庫県の「冒険ひろば事業」を受託する際に実施場所として申し出て、県が国と契約しプレーパークとして使用できるようになりました。元々は邸宅がありましたが、樹齢100年以上の木もあり都会の中の貴重な自然です。委託事業終了後も、毎月県を通して国道事務所に申請書を出し使用。現在は県と当会が用地使用について契約しプレーパークを運営しています。

火の使用については、以前は毎回使っていましたが、今は何とか国道維持事務所に火気使用願いを出し、毎月1回だけカマドに火をおこして昼飯つくろう会を実施しています。これは単なる「昼ご飯を作って食べる」イベントではなく、一緒に作って一緒に食べながら、来場者にプレーパークを実施する意義を伝えたり、来場者同士を繋ぐツールになっています。

また水は隣接する市管理の緑地からホースで引いていて、開催時には常時出しています(水道代は会負担)。冬でも子どもたちは水遊びしますから。また、遊びのきっかけになる「やぐら」や「ターザンロープ」を設置していて、いずれも作り替えや張り替えなど定期的にメンテしています。

私たちは子どもだけでなく大人も楽しい居場所づくりを目指していますがこの国有地プレーパークのおかげで「ほら見てごらん楽しそうでしょ!」といえるのです。場を作り続けることが本当に大事だと思っています。

会及びプレーパークの運営について

当会は1999年に発足した市民団体ですが、発足当初から様々な人々で構成されています。20代の若者から熟年者までいますし、主婦や社会人など立場も様々です。また地域に根ざした活動を心がけ、地域で育った若者たちが現在はプレーリーダーとして活動してくれています。そして毎月1回ミーティング(例会)を実施し情報共有や意思疎通を図り、ボランティア団体ながら何とか一貫した運営を心がけています。

また私たちは子どもたちにのびのび遊んでほしいと願っていますが「子どもに媚びる」ことはしません。あくまで子どもたちが主体的に遊ぶことを見守ります。プレーリーダーの若者はとても重要な存在で、彼らの日当を確保するために県や市の補助金をいただいています。金銭的には大変苦しい状況です。それでもメンバーは、救急講習を受講したり発達障害の勉強会をしたりと何とかできる努力を重ねています。安全面においてはこの16年骨折事故は1件あったものの少しずつ地域の理解を得ながら続けてきました。

■この日は川西の皆さんと交流するためスタッフに協力を求めました

子どもたちは遊び慣れていないのか少し危なっかしいところもありましたが、保護者も協力的で関心が高く、行政の協力で楽しい遊び場ができることを願っています。ただ、普段との違いに常連の小中学生たちが、外から見て帰ってしまったようで残念だったと話していました。(文責：米山)

